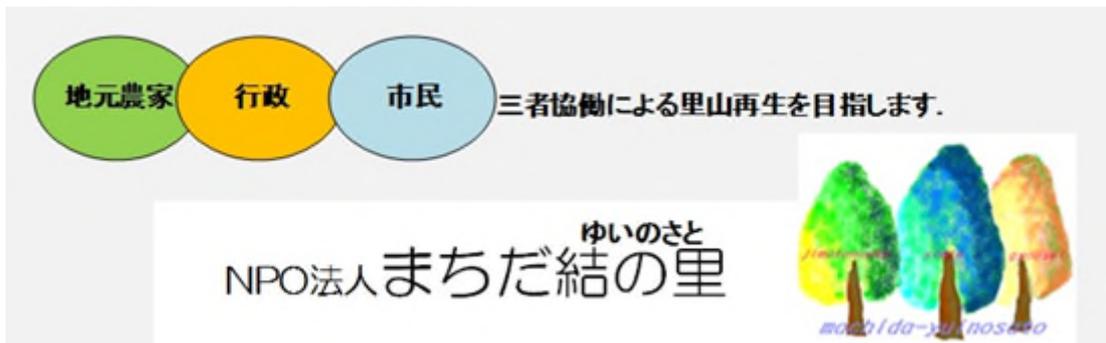


ならばい・たより



9月からの活動を時系列で記載していきます。

1) 9月15(土) 道具の手入れ、他 雨

果樹・農作物の見回りクラブハウスで、

- ・道具の手入れ(鎌研ぎ等)、
- ・メカイ籠講習会の事前準備、

等、を行う。

雨が止む気配無く、本日の活動は午前中で終了、解散
午後に理事会。



写真 福原

2) 9月19(水) 小山田中学校生徒職場体験、他

小山田中学校2年生9名（男子5名、女子4名）

①小山田中学校生徒職場体験

- ・大根・蕪の種まき
- ・ほだ木の天地返し
- ・中央通路下ののり面の草の整理（炭焼き小屋の下周辺）
- ・第三梅林の剪定した花桃の枝の整理

②セイタカアワダチソウの駆除（トキ谷戸の上）、（田んぼ横の山裾）、（キウイの木の周辺）、（イヌザクラ広場の奥の草地）

③野菜（ほうれん草等）の種まき

④中央通路&ネムノキ広場の刈取り済の草の整理

⑤中学生に振る舞う豚汁の準備

ネムノキ広場で終礼、生徒が一人ずつ感想を述べた後、お礼の挨拶があり全ての行事は終了、クラブハウスで小休止（梅ジュースを振る舞う）の後、ひろった栗を持って帰路につく会員はクラブハウスに戻り道具等の手入れ・片づけ。



3) 9月22（土）第二梅林の草刈り

第二梅林の草刈り、田んぼの畔の草刈り&片づけ（奈良ばい）、上の2枚の田んぼの畔を中心に草刈り、田んぼに落ちた草は引揚げる

中央通路の草刈り（切通周辺）、中央通路の草刈り&片づけ（キウイ～三叉路まで）、田んぼの水抜き（東谷戸）、水口のチェック&水はけの悪い田んぼには「てび」を作る ⇒ 水抜き作業は、次回以降の活動日にも要継続

玉ねぎ・ノラボウの種まき（第三梅林の畑）



タマゴタケ？



イヌビユ 稲に紛れている。

この次の日に宇野さんの訃報を聞き驚いてしまいました。

慎んで御悔やみ申し上げます 合掌

4) 9月26(水) 竹炭の袋詰め

下小山田町内会の感謝祭に寄贈する竹炭の袋詰め、クラブハウスで竹炭のカット、袋に入れるパンフレットの印刷、袋詰めをする。尚用意した炭が足りなくなり炭焼小屋にとりに行く

東谷戸の田んぼの水抜き 22日に出来なかった田んぼにてび等を作り稲刈り準備のため水抜きをする。



5) 9月29(土) 畔の草刈り

稲刈りに備え、水はけの悪い田んぼから畔の草刈り&刈った草の整理、田んぼ(奈良ばい)の水抜き、田んぼのまわりにてびを作る、はざかけの準備 今年の奈良ばいのはざかけは全て竹で組み立てる、過去を参考に竹の凡その必要本数(長さ)を決める、過去に使用したはざかけ用の竹を山側の水路横の保管場所より引っ張り出す、保管場所の本数を参考に不足分用に新たに真竹を伐採する(本日は約10本)今後組み立てながら足りない分を補充していくこととする、谷合さんの田んぼからはざかけ用の脚を運ぶ(借用)

メカイ籠講習会の準備、篠竹を切出す





写真 福原

6) 10月3(水) 堆肥舎の片づけ

台風で崩れた堆肥舎の外柵を片づけ枯れ草等の上にブルーシートをかける、田んぼの水抜き稲刈りに備え、畔に切り込みを入れ、水路を整備し田んぼの水はけを良くする

花暦調査

東谷戸稲刈りの準備、稲刈りに備え、畔やはざかけ・脱穀予定地の草刈り、近隣農家(谷合さん)よりパイプのはざかけ資材一式をお借りできることになる、結束用の藁を炭焼小屋倉庫から東谷戸に運ぶ
ゴマの収穫 ゴマを台風等を勘案し収穫(イヌザクラ広場上の斜面)⇒クラブハウスの倉庫に干す



シュレッダー(町田市所有)の搬入

7) 10月6(土) 東谷戸の稲刈り

早出した人がクラブハウスからはざかけの材料等を東谷戸に運び込むのを待ち、東谷戸の直接来た人も参加して、取り敢えず奥の一段高い空き地にはざかけを3列組み立てる。谷合さんの田んぼの一番上の空き地にはざかけを作る⇒終わり次第稲刈り班に合流。道路側の5枚の田んぼの稲刈り⇒空き地のはざかけの一番奥の列に掛ける。谷合さんの4枚目の田んぼの一部の稲を刈りはざかけ用の場所を確保⇒はざかけを作り刈った稲を順次掛ける



8) 10月10(水) 東谷戸の稲刈り

1枚目の田んぼ、6枚目の田んぼ(一番下)の稲刈り⇒結束⇒はざかけ (1枚目の田んぼは出来る範囲でバインダーを使用)

4枚目の田んぼに3列目のはざかけを組み立てる⇒終わり次第稲刈りに合流

クラブハウスから追加のはざかけ資材を運ぶ⇒終わり次第稲刈りに合流

稲刈りが残っている田んぼ: 2枚目→約80%残、3枚目→約70%残、5枚目→略100%残



奈良ばいで写生



9) 10月12(金) 小野路宿里山交流館 「奈良ばい谷戸を訪ねてみよう」

小野路宿里山交流館募集の「奈良ばい谷戸を訪ねてみよう」のガイドウォーク

参加者2名、交流館職員1名、当方3名

10) 10月13(土) 東谷戸の稲刈り

稲の残っている上から2枚目・3枚目・5枚目の田んぼの稲刈り⇒結束⇒はざかけへ架ける。

使用可能な個所にはバインダー(稲刈り機)を投入するが思うようには稼働せず

どんよりした天気で休んでいると思いのほか肌寒く早めに作業を再開、3枚目・5枚目の田んぼは午前中で終わり全員で2枚目の田んぼの稲刈りを行う。

追加のはざかけの組み立ては必要なく、運んだ資材は奈良ばいの稲刈り用に持ち帰る。

昨年は不作だったと言え、今年の東谷戸のはざかけの総延長は約310M強と昨年のほぼ2倍となりました。

因みに、道路側の5枚の田んぼのはざかけのパイプ数は、今年は約11本、

昨年は約6本ですので、谷合さんの6枚の田んぼもほぼ同じ傾向が表れていると思います。(谷合さんの6枚は、今年は全てもち米、昨年は2枚がもち米、4枚がうるち米、でした)

20日(水)は結束用の藁が足りなくなる可能性あり



写真 福原

1 1) 10月14(日) 下小山田町恒例の感謝祭

下小山田町恒例の感謝祭にて結の里作成の竹炭200個を無料提供、今年は同じ町内のマウンテンバイク友の会との共同ブースとしました。

雪下さん、山下さんが結の里作成の竹炭を参加のみなさんに配っていただきました。



写真 福原

1 2) 10月17(水) 稲刈り準備

稲刈り準備 (はざかけ組み立て等)、刈取り済の草の整理
花暦調査、キラリ町田祭の展示の準備、畑の草取り



写真 福原

1 3) 10月20(土) 稲刈り

市役所(視察): 1名

親子で稲刈り体験参加者: 1家族(大人2名、子供3名)

町田三中稲刈り体験参加者: 15名(生徒9名、先生2名、子供2名、
ボランティアコーディネーター2名)

HATS稲刈り体験参加者: 約20名

多摩よこやまの道を歩こう会(よこやまの道)稲刈り体験参加者: 約30名



HATS稲刈り



町田三中稲刈り体験



多摩よこやまの道を歩こう会



親子で稲刈り体験



14) 10月24(水) 稲刈り

稲刈り ネムノキ広場の片づけ

粉碎機の試運転 ⇒ 第三梅林に運び(自走)、剪定枝を処理する

キラリ町田祭準備(袋詰め用に使う竹炭を炭焼き小屋⇒クラブハウスに運ぶ)

キウイの収穫 野菜の手入れ





1 5時より大龍会館で臨時総会の開催

1 5) 10月27(土) 古代米の稲刈り

古代米の稲刈り、トトキ谷戸の一番下の田んぼにはざかけを作る(約6M、パイプ2本)

刈り取った稲は結束しはざかけに掛ける

キラリ町田祭の準備 配布用の竹炭をサイズをそろえて切り、袋に詰める(完成品:148個)

野菜の手入れ&移植 野菜畑の草取り 菜花を観賞用に通路脇に移植する



写真 福原

1 6) 10月31(水) ソバの収穫

ソバの収穫 ソバの刈取り⇒結束⇒はざかけ、に掛ける(後作は小麦の予定)

脱穀した小麦の処理 「とうみ」で小麦の藁キレ等ごみとり ⇒ 製麺所に持ち込み奈良ばいりうどんを作る予定

花暦調査 キラリ町田祭の準備 来場者に配る「唐辛子」等の準備

サツマイモの試し掘り 11月11日(日)の芋掘り体験イベントで参加者に振る舞う焼き芋用に掘る

落花生の試し掘り 東谷戸の脱穀の準備⇒収納袋等のチェック



台風による倒木多数。

17) 11月3(土) 東谷戸の脱穀

大谷さん宅に脱穀機をお借りしに行くも、起動せず大谷さんを交え修理をする。

東谷戸に集合、体操、ミーティング

穴水さんより本日の作業手順、担当等について説明

道路側の5枚の田んぼ分より脱穀開始 脱穀した後の藁を点検、脱穀漏れを抽出し再度脱穀

脱穀後の藁はまとめて結束する

脱穀機が停止、調べたところベルトの断裂が判明、鈴木さん、新井さんが、ベルトの在庫があるか農協等を調べることとなる ベルトを入手出来たとのことで修理開始

結局、脱穀機は稼働状態にならず本日の脱穀の中止決定

脱穀した粃・藁等はクラブハウスに運ぶ 東谷戸の後片付けをする



写真 福原



写真 中尾博 旧居のメカイ部会

18) 11月4(日) 東谷戸の脱穀

脱穀の道具等準備をしてクラブハウスを出たところで雨が降り出し、空模様もあやしく、湿った状態での脱穀は避けることとし、本日の東谷戸での脱穀作業の中止を決定

19) 11月7(水) 炭焼き小屋の片づけ

炭焼き小屋の片づけ 炭焼き小屋周辺の整理・枯枝等の処理

カタクリ生育地の草刈り

落花生の収穫

キラリ町田祭の準備

倒木の調査

野菜の手入れ



20) 11月10(土) さつま芋掘りイベントの準備

さつま芋掘りイベントの準備、第二梅林の枯枝等及び中央通路(第二梅林下)の刈り取った下草の処理

キラリ町田祭の準備

枝豆畑の周囲に張ったネットの片づけ

野菜の手入れ

はざかけの片づけ



21) 11月11(日) さつま芋掘りイベント



22) 11月14(水) 脱穀

脱穀機に不具合が発生、クラブハウスで修理し、イヌザクラ広場に移動 ⇒ 11時15分本谷戸分より脱穀開始

小麦の種蒔 肥料等をまき畝を作り種まき(1升5合) ⇒ 14畝

イヌザクラ広場及び周辺の枯枝等の処理 粉碎機を運び枯れ枝等を粉碎処理処理はほぼ終了

キラリ町田祭の展示物の後片付け

花暦調査

野菜畑の手入れ



23) 11月17(土) 東谷戸の藁の片づけ

東谷戸の藁の片づけ、東谷戸に移動し、はざかけに干してある藁を結束し、はざかけを解体する藁ポッチ作り、例年通りネムノキ広場に藁ポッチをつくることし、芹澤さんの指導で作業開始
(支柱立て、藁の準備、支柱への組み立て等)

ソバのはざかけからの外し、はざかけに干してあるそばをビニールシートに移し、はざかけは解体
(追ってシートの上で棒等でたたき、ソバの実を収穫予定)



24) 11月21(水) 梅林の剪定

梅林の剪定 第一梅林の剪定作業から始める。切った枝は集めて整理する。

刈払機安全講習会 (株)丸山製作所から2名の講師を招き、クラブハウスで「刈払機の安全と保守管理」について講習を受ける。室内での講習後、屋外で刈払機を使つての講習を受ける。全ての講習終了後、受講者に「修了証書」が授与される。

はざかけの水洗い 東谷戸で谷合さんから借用したはざかけ資材(パイプ、脚、フック)を水洗いし汚れを落とす。

脱穀(手作業) 脱穀漏れの穂、落ち穂等を集め、稲穂からそぎ落とし籾にする。

25) 11月23(金) 植物観察会

今日の観察コース: トトキ谷戸→池周辺→田んぼ水路上部斜面→イヌザクラ池
→中央通路→シイタケホダ場→真竹林を右手に見て南通路に抜ける
→南通路鉄塔→孟宗林→階段

リンドウは今が盛りでしばらく楽しめそう、ツリフネソウがトトキ谷戸最上部の池まで進出している
田んぼ水路上部斜面にはゴンズイが結実している、水路にコナスビ開花中、コアジサイが株を増やしている、ヒヤクリョウ(カラタチバナ)発見 高さ20cmほどで実はつけていない

コ克蘭発見 ジャノヒゲ・オオバジャノヒゲノヒゲ・シュンラン・ナキリスゲ・ミヤマカンスゲの見分け方の学習 クロモジが散見される

26) 11月24(土) 藁ポッチ作り

藁ポッチ作り 藁ポッチ作り用の藁を準備し、2体目、3体目の藁ポッチを作る
ネムノキ広場のはざかけに干してあった藁は外し、はざかけを整理する

剪定枝の処理 ネムノキ広場に集めてあった第一梅林の剪定枝をシュレッターで粉砕処理する
第二梅林の剪定枝をネムノキ広場に集め粉砕処理をする 第三梅林に移動し、同梅林の剪定枝を粉砕処理をする

藁の裁断 藁切機で藁を裁断し、田んぼにまく

倒木の処理 イヌザクラ広場奥の山裾の倒木(2本)の処理(玉切りまで)

はざかけの返却 お借りしていたはざかけ資材（パイプ、脚、フック）を数を数え返却
ソバたたき ビニールシートに干してあったそばをたたきソバの実を収穫



写真 中尾博



前日が満月でした。

27) 11月28(水) サトイモの収穫

サトイモの収穫 八つ頭から掘り、ほぼすべてを種芋として残す

続いてサトイモを掘る（種芋として子芋換算で約500ケを確保）本日の収穫は山側の3畝分

一方、種芋保管用に穴を掘り藁を敷き詰めて室を作成、上記の八つ頭とサトイモの種芋を埋める（藁は、ネムノキ広場から運ぶ）

古代米の脱穀 ネムノキ広場に干してあった古代米を炭焼き小屋前広場に運び、小屋から脱穀機を出しセットする

サトイモの収穫量（3畝分）親芋：約14KG、子芋：約64KG 計約78KG（付着した土を含む？）



28) 12月1(土) 粃摺り、藁ボッチづくり

粃摺り、東谷戸天日干し分からスタート、穴水さんと鶴岡さんと、薄井米穀店へ精米を依頼しに軽トラで移動他メンバーは、作業を継続、事前に乾燥機へ入れていた粃を脱穀開始。

昼食は交替でとる、ヘルプメンバーが来て大変助かりました。何名か帰ると、再度薄井米穀店へ軽トラで精米へ、午後ヘルプメンバーが到着、脱穀終了、片づけ開始、大谷様宅から撤収。



お米の収穫量

収穫年	2018	2017	
本谷戸	560.8	210.5	
トトキ	103.4	30.5	
5枚田	105.5	55.5	
谷合さん(6枚)	807.0	452.5	単位 Kg

サツマイモの収穫量

さつまいもの収穫量 (2017~2018年度)

年度	総収穫量 KG)	さつまいも掘り体験収穫量 KG)	体験イベント参加家族数
2017	380	342	13家族
2018	381	271	12家族

29) 12月5(水) お茶の剪定、他

① お茶の木の剪定、②切り藁の散布、③はざかけに使用した竹等の整理、④ほだ場の整理、⑤草刈り、⑥花暦調査、⑦イベントスタジオの準備、⑧ネムノキ広場の整理、⑨精米の引き取り、⑩収穫したゴマの整理





30) 12月7(金) HATS試食会準備、他
HATS試食会準備、餅つき準備、雑木林保全・資源活用委託作業準備

31) 12月8(土) 燻炭作り、他
HATSの受け入れ準備、燻炭作り、草刈り、サトイモの収穫、山芋掘り、イベントスタジオの準備、大豆の収穫



32) 12月12(水) イベントスタジオ展示の準備、他
イベントスタジオ展示の準備、餅つきの準備、お米の配布(寄贈)、野菜の収穫・届け、餅つきの案内状の配布、田んぼのチェック、ソバの収穫、大谷さん宅方訪問、大豆の収穫





写真 福原

9月に小山田中学校から職場体験に来た生徒さんが植えたダイコンを9人分収穫して学校を訪問しました。あいにく生徒さんとの再会は果たせませんでした。受取に来ていただいた清水副校長と記念撮影。



写真 福原

小山田小学校に新米 40Kg を届けました。給食調理室前で。



写真 福原

同じく小山田小学校。三瓶校長と杉島先生。給食のおそそわけとして炊き込みご飯のおむすびと卵焼きをいただきました。杉島先生のお子さん(昨年高校生として結の里で体験活動をされました)は大学生になり、学校の授業や栃木でのフィールドワークにと忙しく活動されているそうです。昨年の結の里での活動が将来の目標設定に大きく影響したとおっしゃっていました。

3 3) 刈払機(草刈機)のエンジンがかからない時の対処方法

良くあるトラブルと原因

- ・エンジンがかからない
 - ・プラグの汚れ ・燃料詰まり ・エアフィルターの詰まり
- ・異常振動 **怪我の原因になります。**
 - ・刃の変形、歯の取り付けミス
 - ・ネジの緩み

エンジンがかからない原因

1) 古くなった燃料を使っている

結の里で使用している刈り払い機は 2 サイクル式のエンジンを使用しているため混合燃料を使用しています。古くなったガソリン、エンジンオイルは、成分が変化して腐食性の酸化物、潤滑油の粘度が強くなりフィルター内部に残っていると、金属反応で腐食して詰まり、エア不足でエンジンがかからなくなります。

1 の対処方法

タンクの燃料を新しいものと入れ替える。軽症の場合は、何度かエンジンスタートを試みるうちに、新

しい燃料と混ざってエンジンがかかる場合がある。

重症となると、キャブレター内部に酸化物が固まってしまい空気が流れなくなっている。こうなると分解して清掃するしかありません。フィルターの汚れの場合、フィルターの交換、フィルターの清掃をする、原因は複数の場所の可能性もありますのですべての確認を。

2) オイルを混合していない

2サイクル式の場合は混合燃料を使用しますが、誤ってガソリンのみを注入すると潤滑する働きができません。そのまま使い続けると摩耗が激しくなり、エンジンが焼き付いてしまいます。

2の対処方法

結の里でも数台このために使用不可能になったものが有ります。いったん焼き付きを起こすと、エンジンはかからない状態となります。この場合は内部部品（ピストン、ピストンリング等）の交換やオーバーホールが必要です。

3) エアフィルターが詰まっている

刈払機（草刈機）で作業中、燃料を燃やす際には空気を取り込みますが、吸気口には空気中のホコリを除去するためのフィルター（フィルターエレメント）が付いています。フィルターが詰まってエアの吸入量が減ると、パワーが低下しエンジンがかからない、となるわけです。

3の対処方法

本来はフィルターを取り出して混合燃料で洗浄することが望ましいのですが、ホコリを叩き出したりエアダスターでホコリを吹き飛ばすことでとり急ぎの対処となるでしょう。

4) スパークプラグが汚れている

スパークプラグが汚れていると火花を起こすことができません。

4の対処方法

不純物を取り除いても火花が出ないか弱くなってしまっている場合は、プラグを交換します。

ガソリンの成分に水が含まれている？

時々「安物のガソリンには水が含まれている」と言う人がいますが、これは事実ではありません。ガソリンを長期に保管していると、室温変化等で容器内に生じた結露が水となって混入することがあります。これが誤解されているようです。「古いガソリンには水が混ざりやすい」というのが実際に近い表現でしょう。

その他結の里では使用していませんが4サイクルエンジンの刈り払い機の場合

1) 古くなったエンジンオイルを使っている

これは4サイクルエンジンの場合です、エンジンオイルも古くなると粘性が強くなって、同様にキャブレターの詰まりからエンジンがかからないようになります。

対処方法 前文の1)の対処方法と同様の方法で対処します。

2) エンジンオイルが切れてしまっている

4サイクルエンジンの刈払機（草刈機）の場合は、ガソリンとオイルは別々に供給します。オイルがなく

なったことに気づかずに使い続けると、オーバーヒートを引き起こしかねません。

対処方法 前文の 3) の対処方法と同様、エンジンの部品交換やオーバーホールを行います。

刈払機（草刈機）はよい燃料から

せつかくの刈払機（草刈機）もエンジンがかからないことには始まりません。日ごろから丁寧なメンテナンスをしましょう、しかし劣化した燃料を使ってしまうとその努力がムダになってしまいます。

品質の期限は意外と早く、密閉状態で冷暗所に保管したとして、せいぜい半年程度とされています。新しいガソリンは薄く赤い透明色をしています、古くなると黄色く変色しますので、おおよその目安になるでしょう。

番外、ポンプを押して燃料を送りますが、送りすぎるとプラグが濡れて着火しなくなります。

この場合はプラグを乾燥させ掃除をして戻します。

また

エンジンがかかる。→アイドルリングだけで動いていて回転を上げようとするとうエンジンが止まる。

チョークとスロットルの位置は微妙に調整しないとかからない。

この場合は、燃料タンクからキャブへ燃料が来ているのか（調査方法不明）。

燃料タンク内部のフィルターの詰まり、燃料を送る管の詰まりが考えられますが調査方法不明

始動時ポンプ（半球状のゴム製）を何回か押すと燃料の詰まりが解消する場合があります。これで直ったとしてもフィルターとパイプは新品に交換しておいた方が良いでしょう。

刈払機を使う時の注意とメンテナンス

保護メガネを必ず使用します。刈払機を使うと砂や小石や刃のチップが欠けたりして飛んでくることがあります。メガネ無しではとても危険です。特にワイヤーでの刈り払い作業は歯を使う時より医師が飛んできます。

服装は長袖シャツと長ズボンを着用、靴はゴム長靴、帽子や手袋も着用します。これは体を保護する為でとても重要です。特にゴム長靴はマムシ(毒蛇)から身を護るには必須です。

マムシの習性としては、人が近づいてもすぐには逃げません。草刈機の音がしてもなかなか逃げません。端から順に短く草を刈っていくとマムシを刃で切ることがよくあります。いきなり草むらに入らないように注意します。奈良ばいでもまだ絶滅が確認できてはいません。

草刈機の機械的に動く部分には注油またはグリスを注入します。ただし、自動遠心クラッチには油分を付けてはいけません。

2 サイクルエンジンには混合油を使用します。一般的にはエンジンオイルとガソリンを 1:20~1:50 の比に混合します。よくわからない時は 1:25 位にします。

あらかじめ草を刈る所の小石は取り除いておきます。草を刈る前にはこの作業は難しいので、草刈りの後に毎回小石を拾っておくと、だんだん小石は少なくなります。小石の全く無い所の草刈りはとても快適です。刈刃も長持ちします。

奈良バイでは小石より切り株、置いたまま、落下した枝に注意が必要、キックバックの原因になる。

草刈りをする所に蜂が巣をしていないか点検することも重要です。特にオオスズメバチは土の中に巣を作る場合がありますので、巣の位置を知らずに近づくと命の危険があります。

作業をする近くに他人が入らないように常に気をつけて作業をします。

前進しながら草を刈る場合、刃が左回転なので、刃先を右から左に向かって動かした時刈るのが能率が良いし、キックバックが発生しないので安全です。

草刈機を長期間使用しないで格納する時は、タンクと気化器の中の燃料を空にしておきます。そうしないとエンジンの気化器の細いジェット部が詰まることがあります。回転部や動く部分には注油したり、グリスを塗っておきます。

その他にも各部を時々点検して、不具合な所は修理しておきます。

草刈機を保管する場所は、乾燥した冷暗所が最適です。一番悪いのが直射日光が当たり、雨の掛かる所です。紫外線や湿気で様々な部品が劣化するのが早いです。

結の里での保管場所は今の場所が良いのですが、燃料の保管場所も同じ場所にした方が良いかもしれません。

<<https://daii.jp/agri/kusakariki.php>>

(草刈機の使い方とメンテナンス - 山里の素人農業) ここからの引用です。

<<https://agripick.com/492>>参考まで

以上

田嶋